

まちだ健康づくり推進プラン24-31 食育推進の体系図

資料2-1

【理念】みんなで作る「健康のまち」まちだ 【基本目標1】誰もががすやかな暮らしができるまちをつくる 【目標3】食で健康を支えるまち(☆重点)

施策		方向性		取組例
施策 (1)	望ましい栄養・食生活の推進	方向性1-1	ライフステージに応じた望ましい食生活の推進	介護予防普及啓発講座(栄養)、料理教室・調理体験、高校や大学における出張講座、栄養に関する健康講座、プレママパパクラス、離乳食講習会、町田っ子カリキュラム、小中学校レシピコンテスト、学校給食のPR(試食会)、給食だよりや食札による普及啓発、口腔の健康に関する普及啓発
		市民一人ひとりが、ライフステージに応じた食の知識と選択する力を習得し、望ましい食生活を実践できるように取り組みます。		
施策 (2)	食を通じて地域とつながるための支援	方向性2-1	共食の推進と食文化・食事マナーの伝承	料理教室・調理体験、乳幼児保護者の会食、子ども食堂、行事食の提供・普及啓発、学校における食育活動、家庭教育支援学級、まちだすいとん
		家族や友人等と一緒に食卓を囲む利点について啓発します。		
		方向性2-2	地産地消の推進	収穫体験・農業体験、食に関するツアー・観光、グルメマップの活用、町田市名産品の推奨、まち☆ベジBOOKの発行、農業祭、市民農園まちだすいとん
		町田産農作物を購入する機会や、町田産農作物を使った料理を食べる機会を増やします。		
施策 (3)	食に関する環境の整備	方向性3-1	家庭や学校、職場における食環境の整備	食の安全に係る学習会、食品衛生街頭相談、食べものミミより情報の発行、アレルギー教室、給食におけるアレルギー対応、食品ロスの削減、飲食店と連携した取り組み
		家庭や学校、職場などにおいて、バランスの良い食事や朝食をとる習慣等の望ましい栄養・食生活が身につくやすい環境を整えます。		
		方向性3-2	地域資源を活用した食に関する情報発信	給食施設における食育(食育ボランティア等)、SNS、商業施設等におけるデジタルサイネージ、食べきりキャンペーン、食品ロスの削減、飲食店と連携した取り組み
		民間企業や給食施設、町田市食育ボランティア等の地域資源を活用して、望ましい栄養・食生活の実践につながる食物や情報を市民に届けます。		

食の「わ」で育むまちだの未来 ～感謝を持って食をたのしみ、食を通じて人や地域とのつながりが持てるまち～

評価：－実施なし・△予定よりできなかった・○予定通りできた・◎想定以上にできた

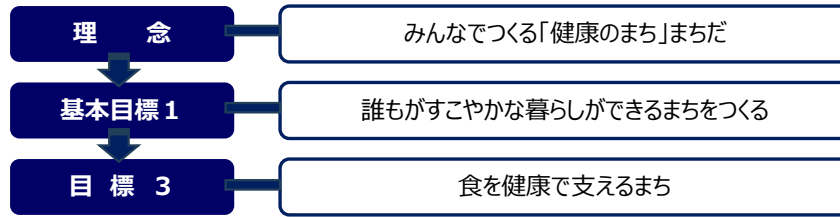
	担当課	取組名	施策	施策の方向性	対象	取組内容	取組実績	評価	評価の理由	課題	今後の方向性	関連する評価指標	他課企業等との連携
1	市民協働推進課	学習会等の開催	(3)食に関する環境の整備	3-1 家庭や学校、職場における食環境の整備	成人・保護者	市民等を対象とした食の安全に係る学習会等の開催	紅麹を使用した健康食品の被害が拡大した状況を受け、6月11日に健康食品をテーマにした学習会を開催し、健康食品の賢い利用法等について情報提供した。	○	健康食品の基礎知識、安全な利用方法等を学んでもらうことができた。アンケートにより受講者の満足度が高かったことを把握した。	消費者（市民）に関心のあるテーマを選定する工夫が必要であり、引き続き市民ボランティアの意見を尊重して学習会を企画する必要がある。	引き続き消費者目線で食の安全に係る学習会等を企画、開催し、食品表示や食品の安全性等を市民に情報発信していく。		なし
2	市民協働推進課	料理教室等の開催	(2)食を通じて地域とつながるための支援	2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承 2-2 地産地消の推進	成人・保護者	市民等を対象とした料理教室等の開催時に町田産の食材を使用する	町田の郷土料理でもあるうどんを親子で作る料理教室を8月2日に開催し、まちベジも紹介して実際に食材として使用した。	○	講師からは野菜の旬について、地産地消の大切さについてもお話しいただいた。アンケートにより受講者の満足度が高かったことを把握した。	消費者（市民）に関心のあるテーマを選定した上で町田産の食材を使用する必要がある。引き続き市民ボランティアの意見を尊重して学習会を企画する必要がある。	引き続き町田産の食材を使用できるよう考慮しながら料理教室等を企画していく。		なし
3	高齢者支援課	介護予防普及啓発講座（栄養）	(1)望ましい栄養・食生活の推進	1-1 ライフステージに応じた望ましい食生活の推進	高齢者	地域の団体を対象に、介護予防における栄養改善の普及・啓発を行う。	依頼があった団体等に対し、計3回講座を実施し、計84名が参加した。	○	ライフステージに応じた望ましい食習慣の形成に役立つ情報発信を行うなど、継続的に栄養改善について普及啓発を行うことができた。	講座の開催を希望する団体が固定化される傾向にあるため、新たな団体等へのアプローチを行っていく必要がある。	健康づくり推進員ハンドブックに講座の案内を掲載するなど、新たなアプローチを行っていく。		なし
4	高齢者支援課	介護予防普及啓発講座（口腔）	(1)望ましい栄養・食生活の推進	1-1 ライフステージに応じた望ましい食生活の推進	高齢者	地域の団体を対象に、介護予防における口腔機能改善の普及・啓発を行う。	依頼があった団体等に対し、計6回講座を実施し、計103名が参加した。	○	継続的に歯と口腔の健康に関する普及啓発ができた。	講座の開催を希望する団体が固定化される傾向にあるため、新たな団体等へのアプローチを行っていく必要がある。	健康づくり推進員ハンドブックに講座の案内を掲載するなど、新たなアプローチを行っていく。		なし
5	高齢者支援課	介護予防月間地域型イベント（口腔）	(1)望ましい栄養・食生活の推進	1-1 ライフステージに応じた望ましい食生活の推進	成人・保護者 高齢者	10月の介護予防月間に、歯科医師によるオーラルフレイル等、歯と口腔の健康づくりに関する講座を地域住民向けに行う。	介護予防月間中に2講座実施し、計20名が参加しました。	○	地域住民を対象とした口腔の健康に関する講座を開催し、普及啓発ができた。	定員に対し、参加人数が少ない状況が続いており、地域住民の関心を得る工夫が必要となっている。	引続き、歯や口腔機能向上の重要性を伝えるための講座を実施する。		なし
6	高齢者支援課	男性料理教室	(1)望ましい栄養・食生活の推進 (2)食を通じて地域とつながるための支援	1-1 ライフステージに応じた望ましい食生活の推進 2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承	高齢者	料理経験が浅く栄養が偏りがちな「男性」を対象に、料理の基本、調理方法、栄養バランス、食の楽しさを認識してもらい、介護予防（低栄養予防・閉じこもり予防）の普及・啓発を行う。（3回連続講座）	2020年度から2023年度まで、感染症対策のため事業を中止していましたが、2024年度から再開し、3期9講座開催した。	○	どの講座も定員を超える申込みがあり、講座を通じて料理の基本や栄養バランス、介護予防に関する普及啓発ができた。	教室参加者が、教室終了後も継続的に活動が続けられるよう、地域の料理グループや新規グループの立上げの案内を行うなど、サポー	引続き、男性料理教室を開催し、男性の低栄養の改善と社会参加の促進を図っていく。		なし
7	保健予防課	食育推進ネットワークの連携	(1)望ましい栄養・食生活の推進 (2)食を通じて地域とつながるための支援 (3)食に関する環境の整備	1-1 ライフステージに応じた望ましい食生活の推進 2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承 2-2 地産地消の推進 3-1 家庭や学校、職場における食環境の整備 3-2 地域資源を活用した食に関する情報発信	妊婦・乳幼児小・中学生 高校・大学生 成人・保護者 高齢者 障がい者	関係機関・団体、行政等が連携し、食に関する環境整備を行う。町田市食育推進委員会の開催（年2回）、食育推進庁内連絡会の開催（年2回）、町田集団給食研究会との連携、町田地域活動栄養士会との連携など	定例の委員会、連絡会、役員会以外に、食のイベントに集団給食研究会（食育講演会）と地域活動栄養士会（食育講演会・女性の健康週間・防災フェア・20祭まちだ）に出展いただき連携できた。	○	話し合いを行うだけでなく、実際に団体と連携してイベントに出展し、市民に食に関する普及啓発ができた。	食育を広げていくためには関係機関や団体とのもっと多くの連携が必要。	今後も関係機関・団体と連携し食育の場を広げていく。	朝食を毎日食べる人の割合 1日の野菜の摂取量 朝食に野菜を食べる人の割合 「共食（誰かと一緒に食事をすること）」をする人の割合 食育に関心がある人の割合	あり 連携部署・企業名 地域活動栄養士会、町田集団給食研究会
8	保健予防課	食環境整備事業	(1)望ましい栄養・食生活の推進 (2)食を通じて地域とつながるための支援 (3)食に関する環境の整備	1-1 ライフステージに応じた望ましい食生活の推進 2-2 地産地消の推進 3-1 家庭や学校、職場における食環境の整備 3-2 地域資源を活用した食に関する情報発信	妊婦・乳幼児小・中学生 高校・大学生 成人・保護者 高齢者 障がい者	市民が望ましい食習慣を形成しやすいよう、情報発信等を図る。 食に関わる関係団体、民間企業と連携して実施する。	食に関わる関係団体、民間企業と連携した取り組みとして、市内デジタルサイネージやレシピブックの発行、スーパー等へのミニのぼり旗の掲示等を行った。	○	新規取組として、市内で件数の多いJA、スーパー三和等での野菜摂取量増加を目的としたミニのぼり旗掲示を行うことができた。	ポピュレーションアプローチのためどこまで届いているかが不明。特に健康無関心層の多い若い世代へ届く情報発信が必要である。	若い世代へ働きかけるため、大学等との連携も増やし食育を進めていく。	朝食を毎日食べる人の割合 1日の野菜の摂取量 朝食に野菜を食べる人の割合 「共食（誰かと一緒に食事をすること）」をする人の割合 食育に関心がある人の割合	あり 連携部署・企業名 町田ゼルビア、ベスカドーラ町田、マルイ、東急リパブル、味の素㈱、三
9	保健予防課	町田市食育ボランティア	(2)食を通じて地域とつながるための支援 (3)食に関する環境の整備	2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承 2-2 地産地消の推進 3-2 地域資源を活用した食に関する情報発信	妊婦・乳幼児小・中学生 高校・大学生 成人・保護者 高齢者 障がい者	食を通じた地域交流の推進により、家族や友人と一緒に食卓を囲んで食事をすることの大切さなどの普及啓発を図ることを目的として、地域で活動を行う。	くらしフェアでの町田すいとん提供、食体験事業での調理実習補助、活動依頼によりバッククッキング調理実習2件、まちだすいとん調理実習1件を行った。	○	参加者から好評なご意見がいただけた。	食育ボランティアの性質上、保健予防課も調整に入るため時間を要する。直前の依頼で依頼側とマッチできなかったことがあった。	今後も保健予防課が行う食育事業や依頼書による活動を継続。徐々に慣れた場所、慣れた活動を増やし、調整の時間を減らし効率よく食育活動を行いたい。	1日の野菜の摂取量	あり 連携部署・企業名
10	保健予防課	食体験事業	(1)望ましい栄養・食生活の推進 (2)食を通じて地域とつながるための支援 (3)食に関する環境の整備	1-1 ライフステージに応じた望ましい食生活の推進 2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承 2-2 地産地消の推進 3-1 家庭や学校、職場における食環境の整備 3-2 地域資源を活用した食に関する情報発信	妊婦・乳幼児小・中学生 成人・保護者	まちだのエコ食ソー食×環境をまるごといただく一日を実施。 農家講話、調理実習（レシピコンテスト優秀作品）、環境政策課食品ロス講話、バイオエネルギーセンター見学を行いました。地域資源（農の風景育成地区）にも踏み込んだ内容を実施。	まちだのエコ食ソー食×環境をまるごといただく一日を実施。農家講話、調理実習（レシピコンテスト優秀作品）、環境政策課食品ロス講話、バイオエネルギーセンター見学を行いました。地域資源（農の風景育成地区）にも踏み込んだ内容を実施。	○	予定していた収穫体験は熱中症警戒アラートにより中止となったにも関わらず、元々プログラムを多く充実させていたので参加者の満足度が高かった。	収穫体験は天候に左右されてしまう。各季節で実施してきたが、毎回天候問題が出てくる。	収穫体験にこだわらず、他課・外部と連携しながら【体験】が行えるよう実施する。（内容が充実していれば収穫体験なしでも参加者の満足度が高いため。）	1日の野菜の摂取量 「共食（誰かと一緒に食事をすること）」をする人の割合 食育に関心がある人の割合	あり 連携部署・企業名 環境政策課・土地 利用調整課農業振興課・指導課・JA、UR
11	保健予防課	まちだすいとんの提供	(2)食を通じて地域とつながるための支援 (3)食に関する環境の整備	2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承 2-2 地産地消の推進 3-2 地域資源を活用した食に関する情報発信	妊婦・乳幼児小・中学生 高校・大学生 成人・保護者 高齢者 障がい者	町田の地域の味としての伝承と町田産野菜の普及啓発、並びに野菜摂取量の増加を目的に「まちだすいとん」をイベントや給食施設等で提供する。	コロナ禍以降久々に食育ボランティアがくらしフェアで100食提供した。学校給食で計4115食提供した。 食数とは別に食育ボランティアが施設でまちだすいとん調理実習も行った。	○	コロナ以降久々にイベントで提供、普及啓発ができ、好評であったため。	作るのに手間がかかる点、時期によっては基本のレシピの町田産野菜が手に入りにくい点で、提供をお願いする際は調整が必要ことがある。	引き続き関係機関に提供を依頼、調整を行う。同時にイベント等で普及していく。	1日の野菜の摂取量 「共食（誰かと一緒に食事をすること）」をする人の割合 食育に関心がある人の割合	なし 連携部署・企業名

評価：－実施なし・△予定よりできなかった・○予定通りできた・◎想定以上にできた													
	担当課	取組名	施策	施策の方向性	対象	取組内容	取組実績	評価	評価の理由	課題	今後の方向性	関連する評価指標	他課企業等との連携
23	保健予防課	妊娠期の方向けの情報提供	(1)望ましい栄養・食生活の推進	1-1 ライフステージに応じた 望ましい食生活の推進	妊婦・乳幼児	妊娠中の適切な食生活について理解を深めることや、保護者の食生活習慣を健全なものにし、生涯を通した健康的な家庭づくりを促すことを目的とした情報提供を行う。	プレママババクラスでの講義やおすすめメニューの案内、イベントスタジオで行った女性の健康週間の展示で情報提供を行った。	○	講義、レシビ、イベントなど様々な方法で啓発ができた。	妊娠前の食生活を考える必要があることの啓発	引き続き情報発信を行う。	朝食を毎日食べる人の割合	なし
												1日の野菜の摂取量	連携部署・企業名
												朝食に野菜を食べる人の割合	
												食育に関心がある人の割合	
24	保健予防課	幼児食講習会	(1)望ましい栄養・食生活の推進	1-1 ライフステージに応じた 望ましい食生活の推進	妊婦・乳幼児 成人・保護者	保護者が、幼児の栄養・食生活を理解することにより、幼児の健康増進を図ることを目的として、講習会開催、情報発信を行う。	保健予防課単独で健康福祉会館で実施。こどもセンターと連携し、まあち、ただon、つるっこで実施した。栄養士講話・保育士手遊び・保健師栄養士相談を行った。	○	地域に根差した講習会として地区担当の保健師と共に、主にその地域で過ごす親子にむけて新規で実施できたため。	集客。年間チラシを作成し、離乳食講習会のように長期間申込ができればよいが、調整が難しい。	保健所の拠点がある地域のまあち、つるっこでは毎年、その他子どもセンターのうち2か所を順番に実施していきたい。	朝食を毎日食べる人の割合	あり
												1日の野菜の摂取量	連携部署・企業名
												朝食に野菜を食べる人の割合	子どもセンター
												「共食（誰かと一緒に食事をすること）」をする人の割合	
												食育に関心がある人の割合	
25	保健予防課	離乳食講習会	(1)望ましい栄養・食生活の推進	1-1 ライフステージに応じた 望ましい食生活の推進	妊婦・乳幼児 成人・保護者	乳幼児の栄養・食生活を保護者に理解させ、乳幼児の健康増進を図ると共に、乳幼児と保護者の交流を通して社会性を育てることを目的として実施。離乳食の講話・試食、歯の話、親子遊びを行う。	通常回(初期・後期)に加え、お父さんのための離乳食講習会（初期）を新規で2回（組名、組名参加）実施した。お父さんのための離乳食講習会では、男女平等推進センター職員講話、管理栄養士離乳食講話、試食、グループ相談を行った。	○	新規でお父さんのための離乳食講習会を男女平等推進センターと連携し実施し、男女共同参画の意識を取り入れた講習会の方向性が見えたため。	新規で始めたものの通常回の講習会に付添として父親の参加が急激に増え、新規講座としてあえてわけることが不自然になってしまった。	お父さんのための離乳食講習会の事業名を廃止し、全ての離乳食講習会に男女共同参画の視点がいったものへ変更する。引き続き男女平等センターと連携する。	朝食を毎日食べる人の割合	あり
													連携部署・企業名
												朝食に野菜を食べる人の割合	男女平等推進センター
												「共食（誰かと一緒に食事をすること）」をする人の割合	
												食育に関心がある人の割合	
26	保健予防課	栄養健康教育（アレルギー教室）			妊婦・乳幼児 成人・保護者	小児の食物アレルギーの有病率が増加しているなか、食物アレルギーの正しい知識の普及と情報提供を図るとともに、保護者や給食関係者の不安を和らげることを目的とし、講演会を実施する。	年1回予定し、予定通り開催できた。35名(申込49名)の参加があった。医師の講話及び看護師のスキンケア実演を実施した。	○	参加者の満足度が高かったため	機器の問題もあり、スキンケア実演の配信に技術を要する点。	オンラインのニーズが高いので引き続きオンラインで実施する。		なし
			(3)食に関する環境の整備	3-1 家庭や学校、職場における食環境の整備									連携部署・企業名
												食育に関心がある人の割合	
27	生活衛生課	食品衛生街頭相談			妊婦・乳幼児 小・中学生 高校・大学生 成人・保護者 高齢者 障がい者	食中毒予防に関する正しい知識を情報提供すると共に、食の安全に関する市民の疑問に直接対応する。	フェスタ中町の会場にブースを設け、1回実施した。	○	多くの市民が来場し、食中毒等の予防に関する情報発信ができた。	屋外での開催のため、来場者数が天候に左右される。	市民と直接対話ができる事業として、食品衛生街頭相談を継続して実施する。		あり
			(3)食に関する環境の整備	3-1 家庭や学校、職場における食環境の整備									連携部署・企業名
													町田市食品衛生協会
												食育に関心がある人の割合	
28	生活衛生課	「食べものミミより情報」の発行			妊婦・乳幼児 小・中学生 高校・大学生 成人・保護者 高齢者 障がい者	安全な食生活の参考となるよう、食の安全に関する正しい情報を発信する。	広報誌「食べものミミより情報」を季節ごとに4回発行した。紙での発行のほか、ホームページへの掲載や、関連部署へのSNS掲載依頼も行った。	○	食の安全について、社会の動向も踏まえた季節ごとの身近なテーマを取り上げ、市民への普及啓発を行った。	より多くの市民に情報発信を行うため、様々な方法で提供を行う必要がある。	食の安全に関する正しい情報を分かりやすく、ニーズに合った方法で発信する。		あり
			(3)食に関する環境の整備	3-1 家庭や学校、職場における食環境の整備									連携部署・企業名
													高齢者福祉課、子ども家庭支援課、他
												食育に関心がある人の割合	複数課、学校法人
													榎本学園、町田市
29	児童青少年課	親子でつくろON（ただON）	(2)食を通じて地域とつながるための支援	2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承	妊婦・乳幼児 小・中学生 高校・大学生 成人・保護者	・親子でおやつ作りの楽しさや自分で作ったものを食べる喜びを体感する ・子育てを楽しむ ・自分の力で「できる」を実感し、意欲を育てる	8/19に「ふりふりりんごシャーベット」、10/5に「ホットなケーキ」、2/11に「チョコくまカップケーキ」を実施しました。親子や友達同士で楽しみながら作る様子や、おいしそうに食べる姿が見られた。	◎	予想以上に参加希望者が集まった回もあり、調理の事業の需要が認められた。また、満足度も高かった。	地域性を考慮し、申込制ではないため、材料を無駄にしないよう準備することが難しい。	今後も幼児も参加できる調理の事業を続けていく。		なし
													連携部署・企業名
												「共食（誰かと一緒に食事をすること）」をする人の割合	
												食育に関心がある人の割合	
30	児童青少年課	0歳あつまれ！ベビョガおにぎり会（ただON）	(2)食を通じて地域とつながるための支援	2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承	妊婦・乳幼児 成人・保護者	おにぎりを握って会食することで、保護者同士の交流を深める。	利用者の発案が実現した事業です。6/14、7/12、9/13、10/11、11/29、12/13、1/10、2/14、3/14に実施しました。参加人数にばらつきがあるものの、毎回楽しい雰囲気会で会食しています。乳児保護者同士の情報交換の場にもなっている。	○	常連の参加者もいて、毎回交流の場として参加者に喜ばれている。	申込制をとっているが、申込が少なく当日参加が多いため、ご飯をどれだけの量用意するか決定が難しい。	乳児保護者の気軽な交流の場として、提供を続けていく。		なし
													連携部署・企業名
												「共食（誰かと一緒に食事をすること）」をする人の割合	
												食育に関心がある人の割合	
31	児童青少年課	英語でcooking（ただON）	(2)食を通じて地域とつながるための支援	2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承	小・中学生 高校・大学生	英語をまじえて各地の料理の作りかたを教わり、地域の特色を学ぶ。	6/18に実施しました。韓国料理として餃子とチュモッパを作りました。「韓国」「餃子」と馴染みが深いものだったので、気軽に参加していた。	◎	大学生が講師となること、世界の料理・言語に触れられること、好評をいただいている。	大学と連携して実施しているが、講師となる人材が見つからない場合がある。	地域の人材を生かしながら事業を継続していく。		なし
													連携部署・企業名
												「共食（誰かと一緒に食事をすること）」をする人の割合	
												食育に関心がある人の割合	
32	児童青少年課	すまいるクッキング（つるっこ）	(2)食を通じて地域とつながるための支援	2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承	小・中学生 高校・大学生	・おやつ作りの楽しさや自分で作ったものを食べる喜びを知る ・自分で作れることを体験し、家庭でも作れるようになる。 ・自分の力で「できる」を実感し、意欲を育てる	5/15、6/19、10/23、11/20、12/19、1/29、2/9、3/12の計8回実施。なかでも6月の「米粉でつくるわらびもち」の回が特に人気が高く、予約がすぐに埋まってしまった。需要が高く、10月に同企画を実施した。	○	おやつ作りの楽しさを知り、家庭でも作ってみたとの声もあり、意欲を育てることに繋かった。	内容によって申し込み状況にばらつきがあるため、子どもたちが気軽に参加できるように内容を見直していく。	低コストで気軽に参加でき、家でも簡単に作れるレシビを考え継続していきたい。		なし
													連携部署・企業名
												「共食（誰かと一緒に食事をすること）」をする人の割合	
												食育に関心がある人の割合	
33	児童青少年課	親子でおいもほり（ばあん）	(2)食を通じて地域とつながるための支援	2-2 地産地消の推進	妊婦・乳幼児 成人・保護者	近隣の農家の方に協力して頂き、さつまいも堀り体験を親子一緒に楽しむ。収穫を自ら体験することで、食への興味を育てる。	10/23に実施。今年度は物価高騰の影響で参加費を3株600円に変更したが、参加者は例年通り21組の参加があり、親子で協力して収穫作業を楽しんでいた。	○	地域の農家さんとの連携によりお芋の収穫までのお話を聞き、参加者親子が収穫までの過程に感謝しながら収穫体験ができていた。	3株600円の参加費が妥当かどうか今後も検討したい。乳幼児だけでなく小学生にも体験の機会を検討したい。	今後も地域連携を大切にしながら、継続していきたい。		なし
													連携部署・企業名
												食育に関心がある人の割合	

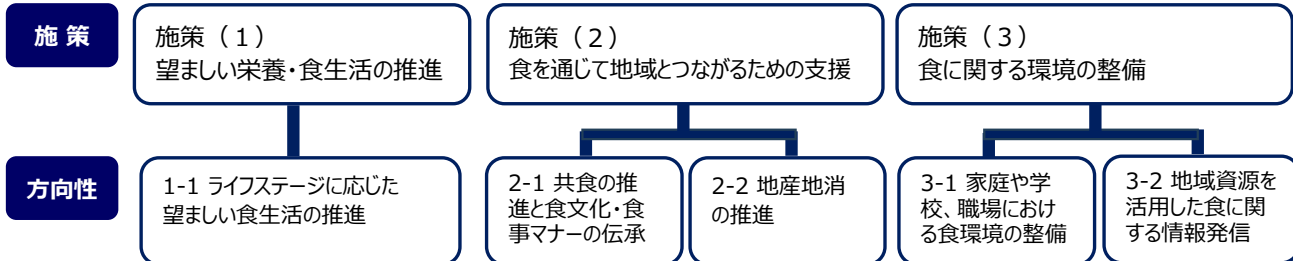
評価：－実施なし・△予定よりできなかった・○予定通りできた・◎想定以上にできた													
	担当課	取組名	施策	施策の方向性	対象	取組内容	取組実績	評価	評価の理由	課題	今後の方向性	関連する評価指標	他課企業等との連携
67	市民病院栄養科	食札への栄養情報提供	(1)望ましい栄養・食生活の推進	1-1 ライフステージに応じた 望ましい食生活の推進	妊婦・乳幼児 小・中学生 高校・大学生 成人・保護者 高齢者 障がい者	入院患者が食に関する興味・関心を高めることを目的とし、患者給食の食札に時節に関する栄養情報を載せる。（月例として17日：減塩 19日：食育の日 30日：EPAの日）	食育の日・減塩・イベント食 4回/月 年間回数 48回実施	○	目標（年間3 6回以上）以上の実施。	イベント食は毎回新しい食札を作成しているが、食育の日・減塩の食札は3年ほど同じ内容。	目標（年間3 6回以上）回数の実施。 新しい食札へ更新していく。		なし
													連携部署・企業名
												食育に関心がある人の割合	
68	市民病院栄養科	栄養情報に関するポスターの掲示	(1)望ましい栄養・食生活の推進	1-1 ライフステージに応じた 望ましい食生活の推進	妊婦・乳幼児 小・中学生 高校・大学生 成人・保護者 高齢者 障がい者	外来・入院患者等に対し食に関する興味・関心を高めると共に、健康に配慮した病院給食のメニューを紹介することを目的とし、食育に関するポスターを作成、栄養情報を掲載し院内に掲示する。	年間発行数 5 回実施 季刊「まちだ市民病院クォーター」に栄養士監修の季節のレシピを掲載	◎	クォーターに掲載され、市民の目に触れる機会が増えたと考える。	ポスターは外来1か所、各病棟1か所に掲示しているが、目に触れる機会が少ない。	掲示場所の検討。		なし
													連携部署・企業名
												食育に関心がある人の割合	

食育進捗調査シート（2024年度各課取組まとめ）

【概要】



指標	指標名	現状値	中間目標	目標値
	朝食を毎日食べる人の割合	78%	80%	85%
	1日の野菜の摂取量	233g	300g	350g
	朝食に野菜を食べる人の割合	61.4%	65%	70%
	「共食（誰かと一緒に食事をする）をする人」の割合	65.3%	70%	75%
	食育に関心がある人の割合	77%	80%	85%



【結果】

担当課数 15部署

取り組み数 68件

(ア) 評価指標に関連する事業数（重複あり） (件)

朝食を毎日食べる人の割合	12
1日の野菜の摂取量	12
朝食に野菜を食べる人の割合	10
「共食（誰かと一緒に食事をする）」をする人の割合	19
食育に関心がある人の割合	47

(イ) 施策の取り組みと評価（重複あり） (件)

	－	△	○	◎	合計	
望ましい栄養・食生活の推進						－実施なし
1-1 ライフステージに応じた 望ましい食生活の推進	0	0	27	2	29	△ 予定よりできなかった
食を通じて地域とつながるための支援						○ 予定通りできた
2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承	0	0	24	2	26	◎ 想定以上にできた
2-2 地産地消の推進	0	0	15	1	16	
食に関する環境の整備						
3-1 家庭や学校、職場における食環境の整備	0	0	16	0	16	
3-2 地域資源を活用した食に関する情報発信	0	0	5	0	5	

(ウ) ライフステージに応じた望ましい食生活の推進について（重複あり） (件)

対象	妊婦・乳幼児	小・中学生	高校・大学生	成人・保護者	高齢者	障がい者
2024年度	42	40	30	49	28	19

(エ) 家庭や学校、職場における食環境の整備について（重複あり） (件)

他課企業等との連携 “あり”	27	40%
他課企業等との連携 “なし”	41	60%

【考察】

・特に朝食や野菜に関連する取組数が少ないことがわかったため、評価指標の数値を上げていくためには、今まで以上に意識してテーマに設定して展開していくことが必要と考えられる。

・プラン変更に伴い、今回より食育進捗調査シートを一新し、今回が評価の基準となるため、－や△評価は出なかった。

・調理系事業でコロナ以降初めて復活させたという事業が2件あった。一時期実施不可となった共食に関わる調理系事業も年々回復している。

・他課企業等の連携が求められており、毎年増加傾向で連携した取組が行われているが、まだ連携の余地はあり、今後も意識して取り組む必要がある。

食育進捗調査シート(2024年度町田市食育推進委員会取組一覧)

資料3

	団体名	取組名	施策	施策の方向性	対象	取組内容	取組実績	評価	評価の理由	課題	今後の方向性	関連する評価指標	他課企業等との連携
①	町田市法人立 保育園協会	カレー作り	(2)食を通じて地域と つなが るための支援	2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承	妊婦・乳幼児	自分たちで植えたジャガイモを観察する中で植物の生長長を知り、 その収穫をしたものでカレー作りを行った。ジャガイモの皮むき、 切るなどは年齢に合わせておこなった。園庭でかまどを使用し、子 どもたちが見ている中で栄養士が調理を行った。地域の方にもカ レーを食べていただいた。	カレー作りは近隣からの要望もあり、釜戸での煮炊きは できなかったが、ジャガイモの生長を観察し、収穫して 調理し、カセットコンロを使って栄養士が調理している 様子を子どもたちは見ていた。作ったカレーはジャガイ モを畑を貸していただき、生育の手助けをしていただい た近隣の方に食べていただいた。	○	園庭で釜戸を使っての調理がで きなかったことで貴重な経験の 機会がなくなったことが残念で あった。	子どもたちのできることの 幅を広げられる取り組みを したいと思う。	カレー作りの際に5歳児がお 米を研いで炊飯器で炊くな ど、カレー作りにとどまら ず献立を意識して取り組み たい。		なし
													連携部署・企業名
②	町田市法人立 保育園協会	のり巻き、フルーチェ、 ふりかけ、おにぎり、 クッキー、ケーキ作り	(2)食を通じて地域と つなが るための支援	2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承	妊婦・乳幼児	年齢に合わせた取り組みを行い、食事に興味を持ってもらう。	フルーチェ作りは年齢にとらわれずに取り組める食育で あった。ふりかけ作りは幼児クラスで行い、春は5歳児、 秋は4歳児、冬に3歳児が行い、各クラスに持って行っ た。おにぎりやケーキ作りは子ども自身で自分のものを 作った。	◎	自ら調理することで食に対して 興味を持つことができた。	子どもたちの意見を聞いて の食育に取り組むたい。	園内でできることを子ども も職員も共に考えたい。		なし
													連携部署・企業名
③	町田市法人立 保育園協会	5歳児の取り組みとして 米、梅ジュース、らっ きょう漬け、梅干し作 り。野菜苗を育てる。	(2)食を通じて地域と つなが るための支援	2-2 地産地消の推進	妊婦・乳幼児	米作りは田植え、その生長の観察、収穫、脱穀、精米、飯盒で炊い て食べることでご飯を食べることの大変さを感じる。梅ジュースは 暑い夏に水分補給として飲んだり、他年齢児とおいしさを味わう。 らっきょう漬けはカレー作りの際に幼児クラスで食べる。梅干しが できたらおにぎりの具材として子どもたち自身でラップでおにぎり を作って食べる。	米作りは植え方を工夫することでその生育が良く、収穫も多かつ た。脱穀や精米は時間がかかったが経験することでいつも食べてい るご飯が貴重なことを感じていた。（精米が多変だったことを語っ ている子どもがいた。）梅ジュースは暑いときは格別な味だった。 らっきょう漬けは食べてことがない子が多く、初めての味を経験す ることとなった。野菜苗は子どもたちで買い物に行き、植え方を野 菜作りをしている方に教してもらい植えることができた。	◎	いろいろな経験ができたことは 子どもたちの食に対しての興味 を広げて行けたこと。	5歳児が中心となっている が、年齢ごとにも取り組め ることをやりたい。	食育の本などを参考に子ど もの声を聴き、取り組める とよいと思う。		なし
													連携部署・企業名
④	町田市法人立 保育園協会	魚の解体ショー	(2)食を通じて地域と つなが るための支援	2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承	妊婦・乳幼児	魚一匹を目の前で解体し、魚を内蔵を見たりその命をいただいて私 たちが生きていることを知る。また、調理方法を知る。	鮭一匹を子どもたちの目の前で下ろしていき、魚の部位 を知ったり、直接触ってみたり、匂いを嗅いでみたり、 その調理方法を実際に見ることで食に興味を持てた。	◎	とても貴重な体験ができた	今後も行っていきたい。違 う魚でもできればよいと思 う。魚のことをより知る機 会としたい。	魚だけではなくほかの食材 でも取り組めるとよい。		なし
													連携部署・企業名
⑤	JA町田市	ゲストティーチャーの引 き受け	(2)食を通じて地域と つなが るための支援	2-2 地産地消の推進	小・中学生	ゲストティーチャーとして小学校に出向き、町田市の農業のことや パケツ稲の栽培方法等を伝えている。また、田植え・稲刈りの体験 授業を1校農家と協力し実施している。	ゲストティーチャー2 7 校実施 中学校の職場体験の受け入れも行った	◎	毎年恒例となっているが子供た ちの興味深々なところに驚かさ れている。	同じ小学校にクラス単位で 訪問することがあるので、 1学年まとめて1回で行う ことを要望します。	学校給食の食材提供と合わ せ、受け入れ学校数を増や していきたい。		なし
													連携部署・企業名
⑥	JA町田市	町田市産農産物利用促進	(2)食を通じて地域と つなが るための支援	2-2 地産地消の推進	妊婦・乳幼児 小・中学生 高校・大学生 成人・保護者 高齢者 障がい者	町田市農業祭において、女性部による「豚汁」の販売を実施	今年の町田市農業祭では、女性部による豚汁の販売を 行った。野菜はすべて町田産で調理した。2日間で3 8 4 食販売。総来場者は9 6 8 0 人でした。	○	好評につき1 2 時頃には完売と なっていました。	町田すいとんは前日の準備 作業が伴うことで、女性部 の皆さんから豚汁に変更の 申し出があった。	次年度も地場野菜を使った 豚汁を提供する予定		なし
													連携部署・企業名
⑨	JA町田市	町田市産農産物利用促進	(2)食を通じて地域と つなが るための支援	2-2 地産地消の推進	小・中学生	学校給食への食材提供により、地産地消の意義や町田市の農業につ いて理解を深めてもらう	令和6年度より通常時での納品小学校数を4校から8校 へ増加した。JA及び生産者合計では81,331kg、うち7月 と1 2 月市内全小学校「まちベジ給食の日」では、2748 kg納入した。1月より中学校給食の納品が開始となり、 ネギ・大根・人参を計452kg納品した。	○	納品先小学校の増加	人員的に納品できる学校数 に限りがある。また農産物 が足りない。	令和7年度より本格的に中 学校給食の納品が開始され るため、給食専用で作付け する生産者も増えている。		なし
													連携部署・企業名
⑩	市内農業生産 者	町田市産農産物利用促進	(2)食を通じて地域と つなが るための支援 (3)食に関する環境の整備	2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承 2-2 地産地消の推進 3-2 地域資源を活用した食に関する情報発信	妊婦・乳幼児 小・中学生 高校・大学生 成人・保護者 高齢者 障がい者	町田産農産物の利用促進のため、野菜の提供	アグリハウスまちだでは月1回規格外品や売れ残った野菜 を無償または半額以下で子ども食堂へ提供している。 アグリハウスつるかわはほぼ毎日社会福祉協議会へ売れ 残った野菜を提供している。	◎	JA町田市として社会福祉協議会 へ無償で大根3 0 0 キロ提供 し、喜ばれたため	配送の問題がある 売れ残る量が少ない	他地区でも少ない量でも取 りに来てもらえるのなら協 力していきたい。		なし
													連携部署・企業名
⑪	町田地域活動 栄養士会	料理教室等の開催	(1)望ましい栄養・食生活の推 進	1-1 ライフステージに応じた 望ましい食生活の推進	成人・保護者	市民等を対象とした料理教室を開催する	まちだくらしフェアにて、講演会「実践！家族で学ぶス ポーツ栄耀」講師：小清水孝子先生（大妻女子大学）を 開催した。参加数は、43名。 男性料理の講師は9回、栄養バランス、栄養情報を行っ た。	○	スポーツ栄養について、正しい 情報の発信ができた。70歳以 上の参加が57%で多かったが、 孫のために役立ったとの意見も 多かった。参加人数が少なっ た。	特に子供、高齢者のスポーツ栄養 については、不足しがちな栄養、 過大な栄養について正しい情報を 伝えるため、学習が必要である。 講演会の参加人数が少ないため、 情報発信の検討が必要である。	より多くの方に、正しい栄 養情報を届けるため、イベ ント等を利用して、食生活 の振り返りから手がけたい。		なし
												1日の野菜の摂取量	連携部署・企業名
												食育に関心がある人の割合	
⑫	町田地域活動 栄養士会	イベントでの展示	(1)望ましい栄養・食生活の推 進 (2)食を通じて地域と つなが るための支援	1-1 ライフステージに応じた 望ましい食生活の推進	妊婦・乳幼児 小・中学生 高校・大学生 成人・保護者 高齢者 障がい者	①市民を対象としての災害時の3日分の献立の展示 ②地産・地消、冬でもバランスよく ③女性の健康づくりにて、ポスター「若い女性の健康づく り～長い人生を健康で美しく過ごすための食生活～」展 示、レシピの配布を行った。	まちだにて、ポスター「朝食に野菜を～塩分2gを意識し た朝ごはん～」の展示、レシピ配布、アンケートを行っ た。 ③女性の健康週間にて、ポスター「若い女性の健康づく り～長い人生を健康で美しく過ごすための食生活～」展 示、レシピの配布を行った。	○	二十祭まちだでは、アンケート 内容を簡単にすることで、227 人に実施できた。目的である食 事の振り返りをし、良い食生活 をめざすことを少し達成できたと 評価する。	より多くの方に、食生活に 関心を持ち、実践できるよ うに興味を持てる内容が望 ましい。	参加増を目指し、内容も関 心を持ってもらえるよう工 夫していく。	朝食を毎日食べる人の割合	なし
												1日の野菜の摂取量	連携部署・企業名
												朝食に野菜を食べる人の割合	保健予防課、 防災課
												食育に関心がある人の割合	

食育報告書(2024年度)

まちだ健康づくり推進プラン24-31

【基本目標1】誰もがすこやかな暮らしができるまちをつくる

【目標 3】食で健康を支えるまち(☆重点)部分 の各課の食育取組(抜粋)

取組名 離乳食講習会(お父さんのための離乳食講習会)

施策(1)望ましい栄養・食生活の推進

○施策の方向性1-1 ライフステージに応じた望ましい食生活の推進

取組団体・企業名	保健予防課・男女平等推進センター
目的	(1) 父親に子育てに関する情報を伝えることで、育児参加しやすい環境をつくる。 (2) 離乳食の正しい進め方を伝え、乳幼児の健全な発育に寄与する。講習会以降も、食事に関する相談窓口として、安心して子育てができる環境をつくる。
実施報告	(1) 実施日及び参加者 お父さんのための離乳食講習会 第1回 2024年7月23日 7組 12名参加 第2回 2025年1月 8日 13組 26名参加 (2) 内容 ① 男女共同参画に関する講話・パネル展示:男女平等推進センター ② 離乳食(初期)講話と試食:保健予防課 ③ グループワーク ※離乳食や育児に関わる意欲が持てるよう、通常の離乳食講習会よりも調理の手順を簡潔にした。 ※調理が苦手でも与える、準備をするなど父親が関わる機会がある、一緒に育児を行えることを伝えた。 (3) 成果 ① 離乳食を与えるイメージができた、自分で離乳食を作れるようになりたい、試食ができ、より参考になった、など、前向きな意見が寄せられた。 ② 通常回の離乳食講習会においても、父親の参加が急増しはじめたことにより、「お父さんのため」と敢えて打ち出す必要はなく、男女共同参画のためには、男女(父母)が同じ立場で講習会を受講できるようにし、共同で育児を行うサポートを行うべきだと事業を実施してみてわかった。 ③ 男女平等推進センターとの連携継続し、離乳食講習会事業を通じ、男女平等の精神に基づく育児共同参画について周知を行う方向性ができた。



取組名 まちだすいとんの提供

施策(2)望ましい栄養・食生活の推進

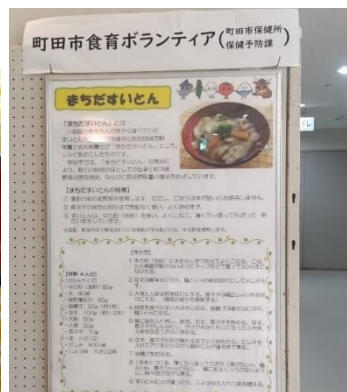
○施策の方向性 2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承

○施策の方向性 2-2 地産地消の推進

施策(3)食に関する環境の整備

○施策の方向性 3-2 地域資源を活用した食に関する情報発信

取組団体・企業名	保健予防課・町田市食育ボランティア
目的	町田の地域の味を伝承し、町田産野菜の地産地消を促進するとともに、野菜摂取量を増やす。
実施報告	(1)内 容 ① まちだくらしフェア2024へのブース出展 出展者:町田市食育ボランティア ※保健予防課はボランティアの活動支援 ・「まちだすいとん」提供(100食)・普及啓発 ・「まちだすいとん」の作り方紹介 ② 市内の給食施設(小学校等)にて給食での提供 ③ 食育ボランティアへ活動依頼があった施設に向け、まちだすいとん調理実習の実施 (2)成 果 ①コロナ以降、イベントでのまちだすいとん提供、食育ボランティアへのまちだすいとん調理実習の依頼はなかったが、久々にすいとんに関する活動ができ、町田の地域の味を普及啓発することができた。再び外へ向けたまちだすいとん普及の足がかりにできた。 ②おいしい、だしがきいてると食べた方からの声は好評であった。 ③食育ボランティアという地域資源の活用をしながら、地産地消を推進することができた。



取組名 食体験事業

施策(1)望ましい栄養・食生活の推進

○施策の方向性1-1 ライフステージに応じた望ましい食生活の推進

施策(2)望ましい栄養・食生活の推進

○施策の方向性 2-1 共食の推進と食文化・食事マナーの伝承

○施策の方向性 2-2 地産地消の推進

施策(3)食に関する環境の整備

○施策の方向性 3-1 家庭や学校、職場における食環境の整備

○施策の方向性 3-2 地域資源を活用した食に関する情報発信

取組団体・企業名	保健予防課・環境政策課・土地利用調整課・農業振興課・指導課・JA・UR
目的	みどり豊かな自然や商業都市という町田市の地域特性を活かし、市内の食や農業生産者とふれあう機会を作り、食を通じた地域とのつながりを図る。 また、その地域性を生かした食環境について知る。
実施報告	(1) 内 容 タイトル:まちだのエコ食ツアー！ ～町田の食×環境をまるごといただく1日～ プログラム:収穫体験・農業生産者講話・環境政策課の食品ロスに関する講話・調理実習・バイオエネギーセンター見学(希望者のみ) ※ 収穫体験中止(熱中症警戒アラート発令のため) 場 所:町田市バイオエネギーセンター 近隣畑(予定していたが収穫定見中止のため行けず) 参加者:8組 19名(大人9名、子ども10名) ※小学3年生から中学生の子どもとその保護者 参加料:調理実習代500円/人 収穫体験費1,000円 ※急遽収穫予定だった野菜のおみやげ代(希望者のみ購入)に変更 (2) 成 果 ① 農業生産者講話:地産地消、自然の恵みや勤労の大切さ、感謝の心に触れる機会となった。 ② 環境政策課講話:食品ロス削減について伝える機会ができた。 ③ 調理実習:町田産野菜を使った調理を通して、食、地産地消について更に興味関心を高める機会となった。朝食レシピコンテストの入賞メニューを作り、この取り組みについても伝えることができた。 ④ 農の風景育成地区にある農家とバイオエネギーセンターで行うことで多くの関連団体と連携・協力を得ながらイベントを開催できた。 ⑤ 収穫体験は中止となったが、内容に一貫性があり、充実していたため参加者の満足度が高い事業ができた



取組名 朝食レシピコンテスト(町田っ子カリキュラムの改訂)

施策(1)望ましい栄養・食生活の推進

○施策の方向性1-1 ライフステージに応じた望ましい食生活の推進

施策(2)食を通じて地域とつながるための支援

○2-2 地産地消の推進

取組団体・企業名	指導課・JA・町田市・保健予防課・農業推進課・保健給食課
目的	「町田市教育プラン24-28」の基本方針Ⅰ施策3の「生涯を通じて健やかに過ごせる体を育成する」に基づき、子どもたちが食への関心を高め、料理をすることの楽しさや食生活の大切さについて考え、必要な栄養やバランスのよい食事について理解を深める機会とする。
実施報告	(1) 内容 ① 夏季休暇期間の課題として朝食レシピコンテストを実施 ② 市庁舎イベントスタジオにて受賞作品展示会(2月)の開催 ③ 小中学校給食に受賞作品のレシピメニューを採用 (2) 成果 ① 市内小中学校から過去最高の4523作品の応募があった。 ② まち☆ベジの活用をレシピの条件としたため、町田の農業、地産地消を考えるきっかけとなった。 ③ 「自分で料理することの楽しさ」や「食生活の大切さ」を改めて考え、食について興味をもつ機会にできた。 ④ 食への関心を高め、必要な栄養やバランスの良い食事について理解を深めることができた。 ⑤ 2月に作品展示会を行ったり、小中学校給食にレシピメニューを採用したりするなど市民や児童生徒に向けて情報を発信することができた。  

【連携協定プレスリリース資料】

町田市と東京家政学院大学が食育推進に関する連携協定を締結します

市と東京家政学院大学は、「まちだ健康づくり推進プラン 24-31」で掲げる『食で健康を支えるまち』を実現するために、8月1日に連携協定を締結します。

この協定は、人的・知的資源の交流と活用を図ることで、市の食育事業を推進させるとともに大学の教育・研究を充実させ、地域社会の発展に寄与することを目的としています。

これまでも、市の食育の課題である市民の野菜摂取量の増加や減塩の取り組みについて、東京家政学院大学から、学生が考案したレシピを提供していただく等、連携した食育推進事業を実施してきました。今後はさらに、若い世代への普及啓発を効果的に取り組んでいきます。

■協定名称：食育推進に関する連携協定

■協定締結日：2025 年 8 月 1 日（金）

■協定締結先：東京家政学院大学（相原町 2600 番地）

■連携による主な取り組み：

- （１）望ましい栄養・食生活の推進に関すること
- （２）食を通じて地域とつながるための支援に関すること
- （３）食に関する環境の整備に関すること

■実施予定事業：

- （１）「まちだすいとん」普及に関する取り組み（学生食堂・学園祭での提供等）
- （２）食育推進に関する取り組み（大学での講座・ワークショップ等）



＜学生提供レシピ・ヤムウンセン＞



＜まちだすいとん＞

※「まちだすいとん」とは、小野路町の農家さんが昔から食べていたすいとんを、町田市保健所と町田地域活動栄養士会が「まちだすいとん」として、レシピをおこしたものです。

■本件に関するお問い合わせ先

保健所 保健予防課長 福島 TEL 042 - 725 - 5422